

編集後記

編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

石田宏代

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

熊倉勇美

倉内紀子

小林範子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

深浦順一

矢守麻奈

この編集後記はモントリオールのホテルの一室で書いています。本日はこの地で開催された Academy of Aphasia の最終日で、刺激されることが多かった学会の日々を思い出しながら書いています。学会に参加して感じたことは、単語処理や構文処理に関する認知神経心理学的モデルが臨床家や研究者の共通概念としてしっかり定着しており、それを基盤として発展的議論がなされていること、また既存モデルの検証ではなく、臨床知見との突き合わせによって新しい理論を創造することにはっきりとした志向があることです。本年は Broca が左半球に言語野があることを証した論文、すなわち“tan …… tan ……”としか話せなかった症例 Leborgne 氏の症状と剖検結果を発表してから 150 年目に当たりますが、学会では Broca 失語を巡る Dejerine と Marie の歴史的討論(1908 年)が文献に即し朗読劇として忠実に再現されました。また、その討論テーマの答えを Nia Dronkers 氏が現代の neural connectivity 理論を用いて明解に解いてみせました。Dronkers 氏の解説は非常に興味深く、150 年にわたる言語とその脳基盤に関する研究の蓄積と発展をひしひしと感じました。ちなみに Dejerine を演じたのは Whitaker 氏で、Marie は Lise Menn 氏が演じました。Dronkers 氏は来年来日し、言語の neural connectivity について講演されることになっています。

本誌は誕生してから 7 年になりますが、投稿論文数が年々増加し内容も充実してきました。今号は嚥下障害、失語症、相貌認知、養成教育に関する興味深い研究が掲載されています。これらの研究の今後の発展を期待したいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第 8 巻 第 3 号)2011 年 11 月 15 日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2011, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎ 03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)